

日本救急医療財団の活動報告

平 賢二 事務局長

2018年10月中旬から2018年12月上旬までの財団の活動について報告します。

総務部門に関する報告

仁平 正行 総務部

1. 救急救命処置検討委員会検討部会開催について

平成30年11月28日(水)13時00分よりTKPガーデンシティ品川において平成30年度「第2回救急救命処置検討委員会検討部会」を開催いたしました。第2回の主な議題は、(1)提案募集の結果について、(2)提案への対応について(3)その他として、秘密保持誓約書、利益相反自己申告書について説明がされました。

坂本救急救命処置検討委員会委員長にオブザーバーとしてご出席いただき、部会委員に事前確認をしていただいた提案15件について、「既存の処置の見直し」、「新しい処置の提案」に分け内容の審議がされました。厚生労働省への報告を見据えた提案者への回答案等の作成を行い、平成30年12月27日開催の「救急救命処置検討委員会」提出資料の作成が確認されました。

研修研究部門に関する報告

穂苅 幸夫 研修研究部

1. 医師救急医療業務実地修練について

平成30年10月29日(月)から10月30日(火)までの2日間、各病院(13施設)において施設研修を実施し、10月31日(水)から11月2日(金)までの3日間、東京都港区のリロの会議室田町会場において、医師救急医療業務実地修練を実施しました。

受講対象者は、二次・三次救急医療施設等に勤務し、救急の第一線で活動している者(日本救急医学会専門医(認定医を含む)またはそれと同等の知識、技術を有する者)であって、施設長の推薦する者となっており、今回は37名の受講者が参加されました。

研修の内容は、救急医の法的問題の講義及びワークショップ、救急部門の管理運営に関することのワークショップ、小児患者の標準治療と最新治療、病院前救護体制と救急体制、災害・テロ対策に関することのワークショップ、地域において救急医療施設が果たす役割の講義、ワークショップ及びJPTECに関する実技、救急医療と感染症情報であり、特にワークショップにおいては、活発な意見交換と受講生自身による体験により受講生の相互間での連帯感が深められ大変有意義な実地修練となりました。

2. 病院前医療体制における指導医等研修(初級者)について

平成 30 年 11 月 29 日（木）から 11 月 30 日（金）までの 2 日間、東京都港区リロの会議室田町会場において、病院前医療体制における指導医等研修（初級者）を実施しました。

受講対象は、3 年以上の救急臨床歴があり、これから MC を始める医師、現在も救急隊員への指導・助言を行っており、オンラインでも指示をしている医師、救急救命士・救急隊員の病院実習に関して院内コーディネーター役となる医師、二次救急医療機関において救急医療を担当している医師であり、今回は 59 名の受講者が参加されました。

メディカルコントロールに関わる組織と法的根拠、メディカルコントロールの現状と課題、オンラインで行う指示、指導・助言の講義・ワークショップ、医師が出動する医療での MC、プロトコルの読み方・使い方の講義・ワークショップ、検証とフィードバックの講義・ワークショップ、病院実習における教育の講義・ワークショップ、ワークショップでは活発な意見交換がなされ、講義内容等の理解・復習の意味としてテストを行い大変有意義な研修会となりました。

3. 保健師等救急蘇生法指導者講習会について

平成 30 年 11 月 29 日（木）から 11 月 30 日（金）までの 2 日間、東京都港区リロの会議室田町会場において、保健師等救急蘇生法指導者講習会を実施しました。

全国から 17 名の受講者が参加され、心肺停止事象が公衆衛生に及ぼす影響、新しい蘇生ガイドライン 2015 と「救命の連鎖」、乳児に対する心肺蘇生法指導ツールと実習、母子保健と救急蘇生法指導（心停止予防・事故防止を含む。）のワークショップ、学校保健と救急蘇生法指導、地域包括ケア歯科システムと救急医療、在宅医療介護サービスを受けている市民や施設入所者の急性疾患や急変に対する保健師等の役割野ワークショップ、災害医療における保健所の役割、災害コーディネーターとの連携における保健師等の役割のワークショップであり、ワークショップにおいては、活発な意見交換と受講生自身による体験により受講生の相互間での連帯感が深められ大変有意義な講習会となりました。